

平成27年度

横浜国立大学大学院
都市イノベーション学府

博士課程前期
(第二次)

学生募集要項

目 次

1. 募集人員	・・・ 1 頁
2. 出願資格	・・・ 1 頁
3. 選抜方法	・・・ 3 頁
4. 出願方法	・・・ 4 頁
5. 提出書類等	・・・ 5 頁
6. 試験期日、および場所	・・・ 6 頁
7. 注意事項	・・・ 6 頁
8. 合格者発表	・・・ 7 頁
9. 入学手続き	・・・ 7 頁
10. コース説明	・・・ 8 頁
11. 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育の実施について	・・・ 12 頁
12. 長期履修学生について	・・・ 12 頁
13. 身体に障害のある入学者の事前相談について	・・・ 14 頁
14. 検定料の返還を請求する場合について	・・・ 15 頁
15. 担当教員一覧	・・・ 16 頁
16. 各コース等問い合わせ先担当教員一覧	・・・ 20 頁

用語に関する注意点：この学生募集要項では「博士課程の前期二年の課程」は「**博士課程前期**」とし、
また「博士課程の後期三年の課程」は「**博士課程後期**」として表記しています。

平成 27 年度 横浜国立大学大学院都市イノベーション学府 博士課程前期（第二次）学生募集要項

都市イノベーション学府・研究院では、建築学、土木工学、人文・社会科学、国際社会や文化・芸術などに関わる分野の双方で、実務に長けた高度専門家の育成を行う。そのために、複数の分野を横断的に学ぶこともできる多面的な研究環境を提供していく。そして最終的には、都市のイノベーションというテーマに対して多様なアプローチを実行する能力を持ち、グローバルに通用する次世代リーダーの養成を目指す。

1. 募集人員

(1) 一般入試

コース別試験内容については、P.8以降のコース説明を参照すること。

専攻	コース	募集人員	コース説明
建築都市文化専攻	建築都市文化コース	若干名	P.8
	建築都市デザインコース(Y-GSA)	募集しない	—
	横浜都市文化コース(Y-GSC)	若干名	P.9
都市地域社会専攻	都市地域社会コース	若干名	P.10
	国際基盤学コース(IGSI)	若干名	P.11

(2) 私費外国人留学生特別入試

コース別試験内容については、P.8以降のコース説明を参照すること。

専攻	コース	募集人員	コース説明
建築都市文化専攻	建築都市文化コース「建築系問題」	若干名	P.8
	建築都市デザインコース(Y-GSA)	募集しない	—
	横浜都市文化コース(Y-GSC)	募集しない	—
都市地域社会専攻	都市地域社会コース「都市基盤系問題」	若干名	P.10
	国際基盤学コース(IGSI)	若干名	P.11

[注] 建築都市文化コース「都市文化系問題」志願者、横浜都市文化コース(Y-GSC)志願者、都市地域社会コース「地域社会系問題」志願者については、一般入試で出願すること。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成27年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成27年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者 [注1]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込みの者

- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込の者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成27年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (8) 個別の審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学府が認めた者で、平成27年3月31日までに22歳に達するもの〔注2、3〕

[注1] 出願資格(2)における平成27年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者とは、学位規則第6条第1項の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものと認定した短期大学、高等専門学校に置かれた専攻科を修了見込みの者で、平成26年10月までに大学評価・学位授与機構に学位の授与を申請した者とする。

[注2] 出願資格(8)に該当するものとは、上記(1)～(7)に該当しない者で、本大学院の個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者で、平成27年3月31日までに22歳に達する者とする。

(主に該当する者：短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者など大学卒業資格を有していない者、または大学卒業までに16年を要しない国の大学を卒業した者で、大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者及び平成27年3月までに1年以上研究に従事する見込みの者)

[注3] 出願資格(8)により出願しようとする場合は、あらかじめ志望先の教員と相談のうえ、**平成26年12月1日(月)から12月3日(水)17時(必着)**に下記の書類(①～⑦)を大学院都市イノベーション学府係まで郵便もしくは窓口で提出し、出願資格の認定を受けること。審査の結果は**平成26年12月12日(金)**発送の郵便で本人宛に通知する。出願資格を有すると認められた者は、**平成27年1月6日(火)から1月8日(木)**に所定の出願手続きを行うこと。(一度提出した書類は、出願手続きの際には必要としない。)

- ① 出願資格認定申請書(書式3)
- ② 出願資格認定用経歴調書(書式4)
- ③ 最終学歴の卒業(見込み)証明書又は在学期間(見込み)証明書
- ④ 最終学歴の成績証明書
- ⑤ 研究業績調書(書式5)
- ⑥ 研究計画書(書式6)
- ⑦ 372円の切手(速達料を含む)を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒(長3)

3. 選抜方法

選抜は、出願書類及び学力検査（外国語試験[注]、専門科目試験、口述試験等）により行う。検査科目についての詳細は、P.8以降の各コース説明を参照すること。なお、外国語試験については以下の[注]を参照すること。

[注]外国語試験

外国語の試験は、(1) 英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）とする。ただし、都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者については、研究希望内容により英語に代えて、(2) のとおり、他の外国語を受験科目とすることができる。

(1) 英語（TOEIC、TOEFL、IELTS スコア）

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC	Official Score Certificate（公式認定証）
TOEFL（PBT、iBT）	Examinee Score Report（受験者用控えスコア票）
IELTS	Test Report Form（公式の成績証明書）

- ① 学科試験当日、上記いずれかの試験のスコア証明書（原本のみ、顔写真付き、コピー不可）を提出すること。証明書は学科試験当日から起算して2年以内のものであること。提出がない場合、外国語（英語）の試験の点数を0点とみなす。提出されたスコア証明書は面接時に返却する。
- ② TOEIC-IP 及び TOEFL-ITP などの団体受験制度、TOEIC Bridge、TOEIC SW のスコア証明書は認めない。
- ③ 換算方法は以下のとおりとする。小数点以下の得点は四捨五入とする。

TOEIC のスコア

以下の方法で 100 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

349 点以下：	0 点
350～500 点：(TOEIC-350) /3	0～ 50 点
500～800 点：(TOEIC-500) /6+50	50～100 点
801 点以上：	100 点

TOEFL のスコア

以下の方法により TOEIC の得点に換算したうえ、上記 TOEIC のスコアの換算方法で外国語(英語)の点数とする。

・TOEFL-iBT の得点は都市イノベーション学府のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算する。(www.urban.ynu.ac.jp/)

・TOEFL-PBT の得点は、 $(\text{TOEFL-PBT 得点} - 296) \div 0.348 = \text{TOEIC 得点}$ により TOEIC の得点に換算する。

IELTS のスコア

以下の方法で 100 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とする。

7 点以上の場合：	100 点
4 点以上 7 点以下の場合：	$(\text{IELTS}-1) \times 50/3$ 点
3 点以上 4 点以下の場合：	$(\text{IELTS}-3) \times 50$ 点
3 点以下の場合：	0 点

(2) ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語、スペイン語

都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者は、研究希望内容によ

り、英語に代えて上記の外国語を受験科目とすることができる。希望する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡を取り、出願時に受験する外国語科目を選択すること。(出願時、利用言語を願書に記載すること。)

① ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語を選択する場合、以下の CEFR 準拠検定試験のスコアをもって筆記試験に換えることができる。学科試験当日に対象となる試験のスコア証明書(原簿のみ、コピー不可)を提出すること。提出可能なスコア証明書は学科試験当日から起算して2年以内のものとし、提出がない場合は外国語の試験の点数を0点とする。なお、提出されたスコア証明書は面接時に返却する。

- ・ドイツ語：Zertifikat Deutsch、Goethe-Zertifikat、TestDaf、TELC 等
- ・フランス語：DALF、DELF、TCF 等
- ・ロシア語：TRKI 等
- ・スペイン語：DELE あるいは西検等

② CEFR 準拠検定試験の換算方法は、下記の間係を基本として、各検定試験の該当レベルでのスコアを換算し外国語の点数とする。

A 1	:	10 点
A 2	:	40 点
B 1	:	70 点
B 2	:	90 点
C 1, C 2	:	100 点

4. 出願方法

- (1) 提出書類を揃え、書留郵便で送付すること。郵送のみで窓口受付は行わない。
- (2) 出願期間は、平成 27 年 1 月 6 日 (火) から 1 月 8 日 (木) までとし、期間内必着とする。ただし、平成 27 年 1 月 7 日 (水) までの発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
- (3) あて先 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
横浜国立大学大学院都市イノベーション学府係 (本学府所定の封筒使用)
[注] 海外在住の志願者は、日本国内に在住する代理人が出願書類を郵送すること。やむを得ず、日本国外から出願書類を送付する場合は、EMS (国際スピード郵便) で送付すること。返信用封筒を日本国外の宛先とする場合は、該当する EMS 料金分の国際返信切手券を同封すること。
- (4) 受験票は 1 月中旬ごろ志願者あてに速達郵便で発送する。

5. 提出書類等

以下の書類を出願手続きの際に提出すること。出願書類に不備がある場合には、出願を受理しないので注意すること。

出願書類	提出者	摘要	書式番号
入学願書	全員	裏面も記入すること。 出願前3か月以内に撮影した写真（縦4cm、横3cm）を受験票及び入学願書に貼付すること。 消えるタイプのボールペンは使用しないこと。	1 2
卒業（見込）証明書	全員	(1) 出身大学（在籍大学）作成のもの。コピー不可。 ただし、外国人留学生でやむを得ず卒業証明書の写をもって代える場合は必ず原本を出願前に窓口に提示すること。 (2) 外国の大学を卒業した場合は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出すること。（卒業証明書で取得学位が確認できる場合は不要。）和文もしくは英文以外で作成された証明書については、和訳もしくは英訳を添付すること。証明書はコピー不可。 (3) 出願資格(2)の出願者で、学士の学位を授与された者は、大学評価・学位授与機構が発行した学位授与証明書を提出し、学士の学位を授与される見込みの者は、在籍学校長が発行した学位授与申請予定証明書を提出すること。	
成績証明書	全員	(1) 出身大学（在籍大学）の学長又は学部長により作成されたもの。コピー不可。 (2) 外国の大学を卒業した場合で、和文もしくは英文以外で作成された証明書については、和訳もしくは英訳を添付すること。	
入学検定料	全員 ただし、日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。 （出願の際、必ず国費給与証明書を同封すること。）	(1) 払込金額 30,000円 （払込手数料は志願者本人負担） (2) 出願期間に間に合うように払い込むこと。 (3) 次のいずれかの方法で払い込むこと。 [日本国内居住の日本人、外国人留学生志願者] ① 郵便局・ゆうちょ銀行で支払う場合 ・「払込取扱票」のご依頼人欄に、志願者本人の住所・氏名・電話番号を記載すること。 ・本冊子綴じ込みの、本学所定の「払込書」を使用し、窓口受付で払い込むこと（ATM使用不可）。 ・「振替払込請求書兼受領証」および「振替払込受付証明書（お客さま用）」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認すること。 ② コンビニエンスストアで支払う場合 ・セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクスにて可能。 ・操作の手順は、巻末の案内書「入学検定料支払い方法のご案内」を参照すること。 [海外在住及び日本国内居住の外国人留学生志願者] ③ クレジットカード（VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS）・中国銀聯網決済により払い込むことが可能。詳細は本学ウェブサイトの「入試・入学」のページを確認すること。 （ www.ynu.ac.jp/exam/graduate/payment/index.html ） (4) 払込済みの「振替払込受付証明書（お客さま用）」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」を所定の貼付用紙（書式13）の欄に貼り付けて出願書類に同封すること。	13

研究計画書	該当者	A4判用紙1ページにまとめたもの。志望コース、指導を希望する教員名、氏名を記入すること。 ※「建築都市文化コース建築系問題」の志願者は提出不要。	6
返信用封筒 (1通)	全員	本冊子綴じ込みの長形3号の封筒に住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(372円)を貼付すること。	
住所氏名記入シール	全員	用紙は本学交付のもの。住所、氏名、郵便番号を記入すること。(切り離さないこと。)	
外国人留学生履歴書	外国人志願者 出願資格(1)の出願者は除く。	用紙は本学交付のもの。記入は日本語又は英語を用いること。	10
在留資格に関する証明書	外国人志願者	(1)現在日本国に在住している外国人の志願者は、市区町村の発行する住民票の写し又は住民票記載事項証明書を提出すること。出願前3か月以内に交付されたもの。 (2)その他の外国人は、パスポートの写しを提出すること。	
出願資格認定書(写)	出願資格(8)による志願者	本学学府長が証明した「出願資格認定書(写)」を同封すること。	

以下は学科試験当日に持参すること。詳細はP.3を参照すること。

外国語スコア証明書	該当者	原本を学科試験当日に持参すること。英語に代えて他の外国語試験を受験する者は提出不要。	
-----------	-----	--	--

6. 試験期日、および場所

平成27年2月2日(月)から2月3日(火)に実施する。筆記試験及び面接の教室割等は、平成27年1月23日(金)15時以降から試験当日までの間、大学院都市イノベーション学府掲示板に掲示する。

試験期日についての詳細は、P.8以降のコース説明を参照すること。

7. 注意事項

- (1) 試験当日は必ず受験票を携帯すること。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めない。また、書類の返却はしない。
- (3) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに出願者に通知する。
- (4) 各コースから課された入学試験科目(学科試験、面接等)の1科目でも受験しなかった場合は、失格となる。
- (5) 志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがある。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理し、それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはない。

8. 合格者発表

- (1) 試験の結果は、平成 27 年 2 月 16 日 (月) 15 時頃に本学府ウェブサイト (www.urban.ynu.ac.jp/) に合格者受験番号を掲載するとともに、2月16日(月) 発送の郵便で合格者に通知する。
- (2) 募集人員に欠員が生じた場合は、追加合格により補充する場合がある。追加合格の通知は、入学願書に記載された現住所への電話連絡及び郵便により行う。追加合格に関する問い合わせには一切応じない。
- (3) 電話、FAX、メール等による合否についての照会には一切応じない。

9. 入学手続き

- (1) 入学手続きは平成 27 年 3 月 9 日 (月) ~ 3 月 13 日 (金) (3 月 12 日 (木) は窓口受付なし)の期間内に必要な手続きを行うこと。詳細は、手続き書類とともに平成 27 年 2 月下旬に郵送する。手続き期間内に手続きを完了しない場合は入学辞退者とみなし、その後の手続きは認めない。
- (2) 入学時に必要な経費〔日本政府（文部科学省）国費留学生に対しては徴収しない〕
 - ① 入学料：282,000円（現行）
 - ② 授業料：年額 535,800円（現行）入学料及び授業料は改定される場合がある。在学中に授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料が適用される。
- (3) 入学手続き後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しは行わない。
- (4) 私費留学生受験者が在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要がある。
- (5) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続きの際、その長又は代表者の就学承認書（様式は任意）を提出する必要があるためあらかじめ準備しておくこと。
- (6) 入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等がある。詳細は学務・国際部学生支援課ウェブサイトの奨学金・授業料/入学料免除のページを確認すること。（www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/）
- (7) 学生寮への入居希望者は、入学手続き期間より前に申請手続きが必要となる場合があるため、各自において学務・国際部学生支援課ウェブサイトの学生寮のページの入居募集案内を確認し、期間内に手続きを行うこと。（www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/）

10. コース説明

■建築都市文化専攻 建築都市文化コース（建築系問題、都市文化系問題）

1. 学力検査内容

学科試験Ⅰは「建築系問題」と「都市文化系問題」があり、志願者は出願時に志望する問題を選択すること。

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）
学科試験Ⅰ	300点	建築系問題志望者に対しては、建築史・建築芸術、建築計画、都市計画、都市環境管理計画、建築環境工学、建築材料構法、建築構造力学、建築構造計画の8科目から第一志望教育分野に関する科目を含めて6科目を選択する筆記試験を行う。
		都市文化系問題志望者に対しては、①建築史・建築芸術、建築計画、②都市計画、都市環境管理計画、③建築材料構法、建築環境工学、④建築構造力学、建築構造計画、⑤映像史・映像論、⑥音楽音響史・音楽音響論、⑦現代アート・現代思想、⑧現代文芸・都市文化論の8分野の中から、第一志望教育分野に関する科目を含めて2分野選択すること。
学科試験Ⅱ	200点	建築系問題志望者に対しては、建築史・建築芸術、建築計画、都市計画、都市環境管理計画、建築材料構法、建築環境工学、鋼構造学、鉄筋コンクリート構造学の中から、第一志望分野に関する1科目を選択する筆記試験と面接を行う。
		都市文化系問題志望者に対しては、研究計画書等にもとづいて、専門分野に係る面接を行う。

2. 検査科目及び日時

① 建築系問題志望者

期 日	科 目 名	時 間
2月2日（月）	英 語	
	学科試験Ⅰ	9時00分～11時00分
	学科試験Ⅱ（筆記試験）	12時30分～14時00分
2月3日（火）	学科試験Ⅱ（面接）	14時00分～

② 都市文化系問題志望者

期 日	科 目 名	時 間
2月2日（月）	英 語	
	学科試験Ⅰ	9時00分～11時00分
	学科試験Ⅱ（面接）	13時00分～

※建築都市文化コースでは、定員の都合上等の理由により、指導教員によっては学生を受け入れることができない場合がある。今回の募集は、P. 16以降の担当教員一覧のうち、★印の教員の指導を希望する者のみを対象とする。

※本コースを志願する者は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ担当教員と相談すること。（P. 16～20 および別紙を参照）

【注意事項】

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ること。
- ・学科試験Ⅰの試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収する。スコア証明書は面接時に返却する。
- ・学科試験Ⅰ、Ⅱ（筆記試験）では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。
- ・受験者は、語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。
- ・私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

■建築都市文化専攻 横浜都市文化コース（Y-GSC）

1. 学力検査内容

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）
学科試験Ⅰ	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造力学、建築構造計画 ⑤映像史・映像論、⑥音楽音響史・音楽音響論、⑦現代アート・現代思想、⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、第一志望教育分野に関する科目を含めて2分野選択すること。
学科試験Ⅱ	300点	これまでの活動の履歴と今後の計画を示す「ポートフォリオ」を提出し、口頭試問を受ける。「ポートフォリオ」には次の内容を含めること。 1) 博士課程前期における活動・研究の計画を示す「計画書」（A4、2ページ以内） 2) 過去の活動・研究・作品制作等の記録

備考1：「ポートフォリオ」はA4判のクリアファイル1冊にまとめ、必ず表紙に受験番号を表記して提出すること。「過去の活動・研究・作品制作等の記録」でクリアファイルに入らないものがある場合は、添付資料として提出し、各資料に受験番号を記すこと。

備考2：「ポートフォリオ」及び添付資料は、学科試験Ⅰの試験終了後に回収する。

2. 検査科目及び日時

期 日	科 目 名	時 間
2月2日（月）	英 語	
	学科試験Ⅰ	9時00分～11時00分
	学科試験Ⅱ（口述試験）	13時00分～

※本コースは芸術文化に関するポートフォリオ作成により修了となる。芸術文化について論文修了を選択する場合は必ず建築都市文化コース（都市文化系問題）で出願を行うこと。

※本コースでは、入試前に教員と志願者との事前の面談は行っていない。

※本コースで出願する場合、第2志望として建築都市文化コース（論文修了コース）を志願することができる。

【注意事項】

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ること。
- ・学科試験Ⅰの試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）、「ポートフォリオ」を回収する。スコア証明書は面接時に返却する。
- ・学科試験Ⅰでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。
- ・受験者は、語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。

■都市地域社会専攻 都市地域社会コース（都市基盤系問題、地域社会系問題）

1. 学力検査内容

学科試験Ⅰは「都市基盤系問題」と「地域社会系問題」がある。志願する者は、出願時に問題を選択すること。

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜） ※ただし、「地域社会系問題」を志望する者については、希望する研究分野により、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語・スペイン語から1ヶ国語を選択して試験を行うことができる。 また、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語についてはCEFR準拠のスコアをもって、筆記試験受験に替えることができる。
学科試験Ⅰ	200点	都市基盤系問題志望者は、数学1題、及び構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学から1分野を選び解答。 地域社会系問題志望者は、人文社会科学分野からの複数の記述問題から1題を選び解答。
学科試験Ⅱ	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関する口述試験を行う。

2. 検査科目及び日時

① 都市基盤系問題志願者

期 日	科 目 名	時 間
2月2日（月）	英 語	
	学科試験Ⅰ	9時00分～11時00分
	学科試験Ⅱ（口述試験）	14時00分～

② 地域社会系問題志願者

期 日	科 目 名	時 間
2月2日（月）	英 語	
	学科試験Ⅰ	9時00分～11時00分
	外国語 [注]	11時30分～12時30分
2月2日（月）～3日（火）	学科試験Ⅱ（口述試験）	別途通知

[注] 地域社会系問題志望者で、他の外国語の筆記試験による選抜を選択した者のみ、上記日時に筆記試験を実施する。

※都市地域社会コースでは、定員の都合上等の理由により、指導教員によっては学生を受け入れることができない場合がある。今回の募集は、P. 16以降の担当教員一覧のうち、★印の教員の指導を希望する者のみを対象とする。

※本コースを志願する者は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員を相談すること。（P. 16～20 参照）

※都市基盤系問題志望者は、第2志望として国際基盤学コース（IGSI）を志願することができる。

【注意事項】

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ること。
- ・学科試験Ⅰの試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語についてはCEFR準拠のスコアのスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収する。スコア証明書は面接時に返却する。
- ・学科試験Ⅰでは、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。
- ・受験者は、語学以外の学力検査科目に限り語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。
- ・私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

■都市地域社会専攻 国際基盤学コース (IGSI)

1. 学力検査内容

外国語	100点	英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜)
学科試験 I	200点	数学 1 題を解答。ならびに、構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学、国際都市計画から 1 分野を選び解答。
学科試験 II	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

2. 検査科目及び日時

期 日	科 目 名	時 間
2月2日 (月)	英 語	
	学科試験 I	9時00分～11時00分
	学科試験 II (口述試験)	14時00分～

※国際基盤学コース (IGSI) では、定員上の都合等の理由により、指導教員によっては学生を受け入れることができない場合がある。今回の募集は、P. 16 以降の担当教員のうち、◎印の教員の指導を希望する者のみを対象とする。

※本コースでは、すべての講義とスタジオ教育、修士論文指導が英語で行われ、修士論文についても英語で作成する。

※本コースを志願する者は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員を相談すること。(P. 16～20 参照)

※本コースで出願する場合、第 2 志望として都市地域社会コース「都市基盤系問題」を志願することもできる。

【注意事項】

- ・受験者は試験開始 20 分前に試験室に入ること。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書 (原本のみ、コピー不可) を回収する。スコア証明書は面接時に返却する。
- ・学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することが可能。
- ・受験者は、語学の辞書を使用することができる。ただし、電子辞書は使用不可。
- ・私費外国人留学生特別入試志願者は、学力検査科目の解答に英語を使うことを認める。

11. 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育の実施について（社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例）

大学院設置基準（文部科学省令）第 14 条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の就学に配慮がなされている。同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者又は研究者に対し運用する。

【特例の内容】

- (1) 修学年限（博士課程前期 2 年、博士課程後期 3 年）のうち 1 年間は、原則として、全日登学をすること。
- (2) 特例による授業は平日の夜間（17時50分～19時20分）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 博士課程前期では学業に専念する 1 年間は主として修士研究に充てられるように修了に必要な授業の単位修得は夜間（17時50分～19時20分）の授業を利用して行うよう履修計画を立てること。したがって、学業に専念する期間における昼間の受講は夜間に開講されていない授業に限ることが望ましい。
- (4) 入学に当たっては、指導教員の指導のもとに、博士課程前期は 2 年間、博士課程後期は 3 年間を見通した履修計画をたてること。
- (5) 修学年限で修了するのが勤務の都合上無理な場合は、あらかじめ博士課程前期は 3～4 年間、博士課程後期は 4～6 年間にわたる履修計画をたてることも考慮すること。
- (6) 「特例」による履修計画の変更はその都度申し出て許可を得ること。

12. 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士課程前期 2 年、博士課程後期 3 年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいう。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく標準修業年限（博士課程前期 2 年、博士課程後期 3 年）分の授業料で修学することができる。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、入学後も職業を有している社会人とする。

2. 申請の手続き

長期履修学生の申請を希望する者は、次の手順に従い手続きを行うこと。下記手続きのひとつでも怠ると審査の対象者とならないので注意すること。

①出願前

出願前に、指導を希望する教員又は問い合わせ先担当教員に長期履修学生の適用を希望する旨申し出ること。

②出願時

入学願書の長期履修学生適用希望欄にチェックを入れること。

③入学時

長期履修学生を希望する者は、次の(1)、(2)の書類を入学手続き時に提出すること。

- (1) 長期履修学生申請書(別紙様式1:平成27年2月下旬の入学手続き書類送付時に送付予定(上記①②の手続きを行った者にのみ送付))
- (2) 在職証明書又は在職が確認できる書類
- (3) 提出期間は、**平成27年3月9日(月)～3月13日(金)(※3月12日(木)は窓口受付は行わない。)(期間厳守)**で、入学手続き書類と同封のうえ、大学院都市イノベーション学府係へ提出すること。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、4月中旬に通知する。

4. 在学期間

長期履修学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなる。

なお、各年度の修了月は、原則3月、9月となっているので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入すること。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となる。

注) 在学中に授業料の改定が行われた場合には再計算された額となる。

(算出例) 博士課程前期の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合
$$\frac{535,800 \text{円} \times 2 \text{年}}{3 \text{年}} = 357,200 \text{円}$$

(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

6. 在学期間の短縮

長期履修学生は、認定された在学期間の短縮により修了することができる。

在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければならない。

*詳細については必ず窓口にご相談すること。

7. 在学期間の延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができる。

在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」提出し、承認を得なければならない。ただし、在学期間の延長は1度限りのため注意すること。

在学期間は、博士課程前期4年、博士課程後期6年を超えることができない。

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになる。

13. 身体に障害のある入学者の事前相談について

下表に該当する者（出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む）は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることが起こり得るため、出願する前に必ず都市イノベーション学府係へ次の様式により事前に相談すること。なお、次表から判断できない場合については、問い合わせること。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視覚障害	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障害	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦 横浜国立大学長 殿 横濱国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。 記 1. 志望する学府・専攻・コース 2. 身体の障害の種類、程度 3. 受験に際して配慮を希望する事項 4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項 5. そ の 他 (添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料	平成 年 月 日 ふりがな 氏 名 生年月日 住 所 〒 電話番号
---	--

14. 検定料の返還を請求する場合について

次の場合を除き、いかなる理由があっても出願書類を受理した後の払込済みの入学検定料の返還は行わない。

(1) 検定料の返還ができるもの

①入学検定料を払い込んだが横浜国立大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

②入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

(2) 検定料の返還請求の方法

以下①～⑤の項目を明記した入学検定料返還請求願（様式は問わない）を作成し、必ず、検定料支払・払込証明書（「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷した物」）を添付して、速やかに郵送すること。

①返還請求の理由 ②氏名（ふりがな） ③現住所 ④連絡電話番号 ⑤試験の種類

(3) その他

①検定料の返還（払戻し）には相当の日数がかかる場合がある。

②出願が受理されなかった場合については、本学から別途返還に必要な書類を郵送する。

送付先：〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 番 5 号

横浜国立大学 大学院都市イノベーション学府係 宛

15. 担当教員一覧 ★印または◎印の教員のみ募集する。

■建築都市文化専攻

・建築都市文化コース

氏名	職位	研究内容のキーワード
大野 敏	教授	日本建築史研究。特に厨子を主眼とした仏堂・社殿内部空間の研究。近世民家を中心とした住宅史研究。文化財建造物の保存に関する理論研究。伝統的建築技法の保存継承に関する研究。
大原 一興	教授	建築計画、人間—環境系理論の研究。高齢社会・成熟社会における生活環境(住宅、福祉・文化・教育施設、都市・農村環境)の計画論。UD。環境老年学。エコミュージアム、ニューミュージオロジー。
★清田 友則	教授	サブカルチャー、ジェンダー、セクシュアリティ、精神分析、文学理論、文化政治批判。
★樽沼 範久	教授	近代思想・現代芸術研究。空間と(非)知覚を焦点にした技術と芸術の探求。
佐土原 聡	教授	都市環境のデザイン・マネジメント、地域冷暖房、地域エネルギーシステム、都市の危機管理・防災、安全・環境調和まちづくり、生態系サービスを活かした都市、地理情報システム(GIS)。
高見澤 実	教授	専門分野は都市計画、まちづくり、市街地整備、住環境マネジメント。それらの計画理論、事業手法、主体形成、制度システム等を研究。また、海外の都市計画システムや都市計画理論をひろく研究。
田川 泰久	教授	鉄骨構造及び鋼コンクリート合成構造の耐震設計法に関する研究。鉄骨構造骨組の終局耐力および塑性変形能力、鉄骨造接合部の終局耐力、合成梁部材の塑性変形能力。
田才 晃	教授	鉄筋コンクリート造建築物の耐震安全性に関する研究、構造物の応答制御に関する研究、耐震設計法の開発、既存構造物の耐震改修に関する研究、地震災害における構造被害の調査と分析。
★彦江 智弘	教授	フランス文学(20世紀小説)、現代文学、フランス文化、映画批評。
★室井 尚	教授	情報文化論、メディア美学、文化研究、記号論、現代思想。アートと社会、文化と社会との結びつきを理論と実践の両面から多角的に探求していく。
茂木 一衛	教授	西洋芸術音楽に関する音楽学的研究。作品分析に基づく音楽の歴史的美学的な研究成果の、演奏実践への応用。
江口 亨	准教授	建築構法、建築ストック活用。建築の生産性や住宅の構法史に関する研究。ストック型社会における建築関連産業や専門家のあり方に関する研究。
河端 昌也	准教授	大スパン建築構造物の耐風、耐雪安全性に関する研究、テンション材の活用による架構方法の合理化に関する研究、形状決定と外力に対する挙動の解析方法に関する研究。
★須川 亜紀子	准教授	アニメ、マンガ研究、オーディエンス研究(コスプレ、2.5D ミュージカル、コンテンツツーリズム)
★田中 稲子	准教授	建築の温熱・光環境に関する環境計画研究。住まい方による建築の省エネルギー化、住環境教育に関する研究。
★中川 克志	准教授	聴覚文化論。実験音楽とサウンド・アート、並びに音響メディア論。
野原 卓	准教授	専門は、都市デザイン、景観、まちづくり。 都市空間のデザイン及びマネジメント、資源・歴史・景観を活かしたまちづくりに関する研究及び実践的プロジェクト活動と調査分析。
★平倉 圭	准教授	映像論、近現代美術論、知覚論。映像によって思考する方法の探求と実践。

氏名	職位	研究内容のキーワード
藤岡 泰寛	准教授	住居・住環境・コミュニティに関わる建築計画研究。持続可能な居住地計画、コハウジング、ライフスタイルの研究。建築・都市づくり・デザインやマネジメントに誰もが参画できる方法論の探求と実践。
松本 由香	准教授	建築物の構造安全性、特に鉄骨構造物の耐震性能に関する研究。架構や構造部材の耐力及び変形性能の予測に関する研究。構造物の必要性能に関する多角的検討。地震被害の調査と分析。
吉田 聡	准教授	建築・地域の省エネルギー化、低炭素化、環境配慮の技術、計画・運用・管理手法およびその評価に関する研究。
Fabien Carpentras (ファビアン・カルバントラ)	講師	映画研究、特に70～80年代の邦画。映画的表现、映画と社会、映画とイデオロギー。

・横浜都市文化コース (Y-GSC)

氏名	職位	研究内容のキーワード
*清田 友則	教授	サブカルチャー、ジェンダー、セクシュアリティ、精神分析、文学理論、文化政治批判。
*樽沼 範久	教授	近代思想・現代芸術研究。空間と(非)知覚を焦点にした技術と芸術の探求。
*彦江 智弘	教授	フランス文学(20世紀小説)、現代文学、フランス文化、映画批評。
*室井 尚	教授	情報文化論、メディア美学、文化研究、記号論、現代思想。アートと社会、文化と社会との結びつきを理論と実践の両面から多角的に探求していく。
茂木 一衛	教授	西洋芸術音楽に関する音楽学的研究。作品分析に基づく音楽の歴史的美学的な研究成果の、演奏実践への応用。
*須川 亜紀子	准教授	アニメ、マンガ研究、オーディエンス研究(コスプレ、2.5D ミュージカル、コンテンツツーリズム)
*中川 克志	准教授	聴覚文化論。実験音楽とサウンド・アート、並びに音響メディア論。
*平倉 圭	准教授	映像論、近現代美術論、知覚論。映像によって思考する方法の探求と実践。
Fabien Carpentras (ファビアン・カルバントラ)	講師	映画研究、特に70～80年代の邦画。映画的表现、映画と社会、映画とイデオロギー。

■都市地域社会専攻

・都市地域社会コース

氏名	職位	研究内容のキーワード
*大須賀 史和	教授	哲学・倫理学、ロシア思想史(社会・政治・文化)。主要なテーマは、東方正教の影響下に構想された宗教哲学における人間論、存在論、言語論で、日本や欧米の諸潮流との比較研究も行っている。
*勝地 弘	教授	安全・安心・快適な社会の実現をテーマに、橋梁の空力振動問題、強風予測、強風災害リスクアナリシス、構造物の振動問題、構造設計論などの研究を行っている。
*小長井 一男	教授	地震で地盤も岩盤も大きく変形し、それが地震災害のみならず、その後の国土保全にも重大な影響を及ぼしている。決して”動かざること山の如し”ではない地盤・岩盤の研究を行っている。
*齊藤 麻人	教授	グローバル化時代の都市政策。グローバル化、都市間競争、新自由主義的な政策の結果としての都市再生の矛盾や明暗を政治経済学的視点から研究している。
*白水 紀子	教授	専門分野は中国・台湾の近現代文学およびジェンダー研究。東アジアにおける近代の問題を、近代家族の形成、ジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成などをテーマに研究している。
*須川 英徳	教授	韓国の歴史・社会・文化、なかでも 14-19 世紀の社会経済史を専門分野としている。また、日本と韓国の歴史認識、問題関心と接近方法の違いも研究領域としている。
*椿 龍哉	教授	コンクリート工学、耐震・耐久設計、複合構造。鉄筋コンクリート構造物およびプレストレストコンクリート構造物の安全性と耐久性の向上、高性能セメント系複合材料の開発等に関する研究を行う。
*中村 文彦	教授	専門は土木計画学、特に都市交通計画。都市計画、環境・福祉政策、途上国開発との関連を重視した実際的な課題、特に公共交通・交通マネジメントに関わる課題を多く取り上げている。
中村 由行	教授	沿岸海域や湖沼を主対象に、水圏環境の保全や生態系修復に関する研究に従事している。特に、環境中の水理現象と物質循環に関して、現地観測や数理解析的研究を実施している。
*早野 公敏	教授	専門は地盤工学。なかでも交通地盤構造物、軟弱地盤改良、地盤防災、地盤材料をキーワードに、社会インフラを支える地盤基礎構造物の諸課題をテーマに研究している。
*藤掛 洋子	教授	専門は、開発人類学、ジェンダーと開発、パラグアイ地域研究。国際協力、NGO 実践、社会企業、女性のエンパワーメントなどをキーワードに研究・実践活動を行っている。
山田 均	教授	長大橋をはじめとする新しい社会基盤構造物を対象に、土木工学、風工学、鋼構造、橋梁工学、長周期構造システム、空力弾性学、構造動力学をキーワードとした諸課題について研究を行っている。
*四方田(垂水)千恵	教授	植民地時期の台湾文学を中心に、日本近現代文学や映画における植民地表象、さらには現代台湾文学・映画における日本表象など、東アジアの文化交流の問題をテーマに研究している。
小ヶ谷 千穂	准教授	専門は国際社会学・国際労働移動論。フィリピンを中心にアジアにおける人の国際移動とジェンダー・労働・家族の問題について研究を行っている。
*菊本 統	准教授	地盤工学、地盤環境工学、応用力学を専門としている。地盤の変形・破壊や保水・浸透のモデルの開発とその地盤解析技術への応用および地盤防災・減災への展開に関する研究に取り組んでいる。
*小宮 正安	准教授	中央ヨーロッパの文化史、社会史・オーストリアのウィーンを足がかりとしながら、「一つのヨーロッパ」という考え方が歴史や文化に与えた影響に関する研究をおこなっている。

氏名	職位	研究内容のキーワード
近藤 久洋	准教授	開発と援助の比較政治経済学: 開発途上国の国家・比較政治・ガバナンス・公共政策と、援助政策(特に新興ドナー援助)に関する研究を行っている。
*鈴木 崇之	准教授	海岸工学、特に沿岸域における海岸侵食問題、砂浜の地形変化モデルの構築等の研究に従事。また、沿岸環境、沿岸防災等に関する研究も取り組んでいる。
*田中 伸治	准教授	専門は交通工学。交通運用、交通シミュレーション、ITS(高度交通システム)に関する研究に従事。既存の交通インフラを有効に活用する交通マネジメントに関する研究も行なっている。
*西尾 真由子	准教授	構造工学、特に橋梁を対象に構造物の安全性・信頼性向上に関する研究に従事。センサ技術を用いた、実構造物の振動特性解析、健全性診断。数値解析法に関する研究も行っている。
*朴 祥美	准教授	専門は近現代日本と東アジア関係史。特に、戦前と戦後日本における演劇、舞踊などのパフォーマンスを媒介とした文化外交および文化振興、対植民地文化政策などについて研究。
*長谷川 秀樹	准教授	フランス社会学。現代フランス語圏文化社会研究。コルシカ島の地域研究。日本とフランスの文化・社会政策を比較し、まちづくりや生活と関連づけたツーリズムのあり方を考察する。
*細田 暁	准教授	コンクリート工学、メンテナンス工学を専門としている。コンクリート構造物の高耐久化、維持管理の技術に関する研究と、それらを実構造物で達成するためのマネジメントの研究を行っている。
*松原 宏之	准教授	専門分野は歴史学。十九世紀から二十世紀初頭のアメリカ合衆国を主なフィールドにした政治文化史。ジェンダー、人種、科学、社会運動、社会政策、都市政治といったトピックを横断する統合史。
*松本 尚之	准教授	専門は文化人類学、アフリカ地域研究。特にナイジェリアをフィールドとし、国家政治と民族文化の関係や、都市移民の生活戦略に関する調査・研究を行っている。
*松行 美帆子	准教授	専門分野は都市計画・まちづくり。とくに開発途上国の都市・地域計画、都市問題、都市環境政策に関する研究、日本や欧州の環境共生型の都市計画に関する研究を行っている。
鎌原 勇太	講師	国際関係論、内戦研究、民主主義理論、政治学方法論。国際社会の諸問題、特に内戦に関する量的研究を行うと同時に、政治現象を分析するための手法やデータセット構築にも関心がある。

・国際基盤学コース (IGSI)

氏名	職位	研究内容のキーワード
◎勝地 弘	教授	安全・安心・快適な社会の実現をテーマに、橋梁の空力振動問題、強風予測、強風災害リスクアナリシス、構造物の振動問題、構造設計論などの研究を行っている。
◎小長井 一男	教授	地震で地盤も岩盤も大きく変形し、それが地震災害のみならず、その後の国土保全にも重大な影響を及ぼしている。決して”動かざること山の如し”ではない地盤・岩盤の研究を行っている。
◎椿 龍哉	教授	コンクリート工学、耐震・耐久設計、複合構造。鉄筋コンクリート構造物およびプレストレストコンクリート構造物の安全性と耐久性の向上、高性能セメント系複合材料の開発等に関する研究を行う。
◎中村 文彦	教授	専門は土木計画学、特に都市交通計画。都市計画、環境・福祉政策、途上国開発との関連を重視した実際的な課題、特に公共交通・交通マネジメントに関わる課題を多く取り上げている。
◎中村 由行	教授	沿岸海域や湖沼を主対象に、水圏環境の保全や生態系修復に関する研究に従事している。特に、環境中の水理現象と物質循環に関して、現地観測や数理解析的研究を実施している。

氏名	職位	研究内容のキーワード
◎早野 公敏	教授	専門は地盤工学。なかでも交通地盤構造物、軟弱地盤改良、地盤防災、地盤材料をキーワードに、社会インフラを支える地盤基礎構造物の諸課題をテーマに研究している。
◎山田 均	教授	長大橋をはじめとする新しい社会基盤構造物を対象に、土木工学、風工学、鋼構造、橋梁工学、長周期構造システム、空力弾性学、構造動力学をキーワードとした諸課題について研究を行っている。
◎菊本 統	准教授	地盤工学、地盤環境工学、応用力学を専門としている。地盤の変形・破壊や保水・浸透のモデルの開発とその地盤解析技術への応用および地盤防災・減災への展開に関する研究に取り組んでいる。
◎鈴木 崇之	准教授	海岸工学、特に沿岸域における海岸侵食問題、砂浜の地形変化モデルの構築等の研究に従事。また、沿岸環境、沿岸防災等に関する研究も取り組んでいる。
◎田中 伸治	准教授	専門は交通工学。交通運用、交通シミュレーション、ITS(高度交通システム)に関する研究に従事。既存の交通インフラを有効に活用する交通マネジメントに関する研究も行なっている。
◎西尾 真由子	准教授	構造工学、特に橋梁を対象に構造物の安全性・信頼性向上に関する研究に従事。センサ技術を用いた、実構造物の振動特性解析、健全性診断。数値解析法に関する研究も行っている。
◎細田 暁	准教授	コンクリート工学、メンテナンス工学を専門としている。コンクリート構造物の高耐久化、維持管理の技術に関する研究と、それらを実構造物で達成するためのマネジメントの研究を行っている。
◎松行 美帆子	准教授	専門分野は都市計画・まちづくり。とくに開発途上国の都市・地域計画、都市問題、都市環境政策に関する研究、日本や欧州の環境共生型の都市計画に関する研究を行っている。

16. 各コース等問い合わせ先担当教員一覧

専攻名	コース及び選択する問題	担当教員名	電話番号*	メールアドレス
建築都市文化専攻	建築都市文化コース			
	建築系問題	吉田 聡	4249	syoshida@ynu.ac.jp
	都市文化系問題	中川 克志	3342	katsushinakagawa@ynu.ac.jp
	横浜都市文化 (Y-GSC)	中川 克志	3342	katsushinakagawa@ynu.ac.jp
都市地域社会専攻	都市地域社会コース			
	都市基盤系問題	田中 伸治	4032	stanaka@ynu.ac.jp
	地域社会系問題	鎌原 勇太	3226	y-kamahara@ynu.ac.jp
	国際基盤学 (IGSI)	田中 伸治	4032	stanaka@ynu.ac.jp

*問い合わせ先電話番号：045-339- (表中の電話番号)

横浜国立大学大学院 入学検定料支払方法のご案内

横浜国立大学大学院の入学検定料をコンビニエンスストアにて払い込む場合は、下記のコンビニ端末を操作の上、レジにてお支払いください。(出願期間1ヶ月前よりお支払いいただけます。)

1 お申込み

セブン-イレブン マルチコピー機
<http://www.sej.co.jp>
 最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。
 TOP画面の「**学び・教育**」よりお申込みください。



学び・教育
↓
入学検定料等支払

LAWSON Loppi **MINI STOP Loppi**
<http://www.lawson.co.jp> <http://www.ministop.co.jp>
 最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。
 TOP画面の「**各種サービスメニュー**」よりお申込みください。



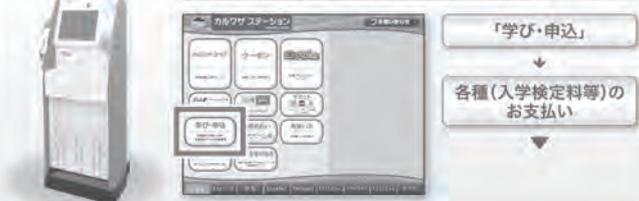
「各種申込(学び)」を含むボタン
↓
学び・教育・各種検定試験
↓
大学・短大・専門、小・中・高校等お支払い

FamilyMart Famiポート
<http://www.family.co.jp>
 最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。
 TOP画面の「**申込・請求(学び・教育)**」よりお申込みください。



申込・請求
↓
学び・教育
↓
各種(入学検定料等)お支払いサービス

カルワザステーション
<http://www.circleksunkus.jp>
 最寄りの「サークルK・サンクス」にある「カルワザステーション」へ。
 TOP画面の「**学び・申込**」よりお申込みください。



「学び・申込」
↓
各種(入学検定料等)のお支払い

横浜国立大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「**払込票 / 申込券 / 受付票**」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

コンビニのレジでお支払いください。

- 端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi, Famiポート)または「受付票」(カルワザステーション)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**
- お支払い後は「取扱明細書」(マルチコピー機、カルワザステーション)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi, Famiポート)を受け取ってください。

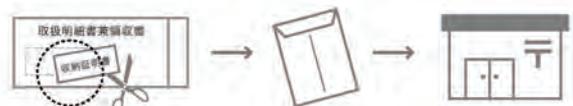
*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
 *お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
 *すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料	入学検定料(5万円未満)1件につき	486円
-------	-------------------	------

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「**収納証明書**」部分を切り取り、入試要項などの指示に従って郵送してください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある期は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



【入試に関するお問合わせ先】 横浜国立大学大学院 教育学研究科 TEL 045-339-3261 / 国際社会科学院経営学専攻 TEL 045-339-3684
 国際社会科学院法曹実務専攻(法科大学院) TEL 045-339-3660 / 工学府 TEL 045-339-3817
 環境情報学府 TEL 045-339-4426 / 都市イノベーション学府 TEL 045-339-3826

【操作などのお問合わせ先】 学び・教育サポートセンター <http://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

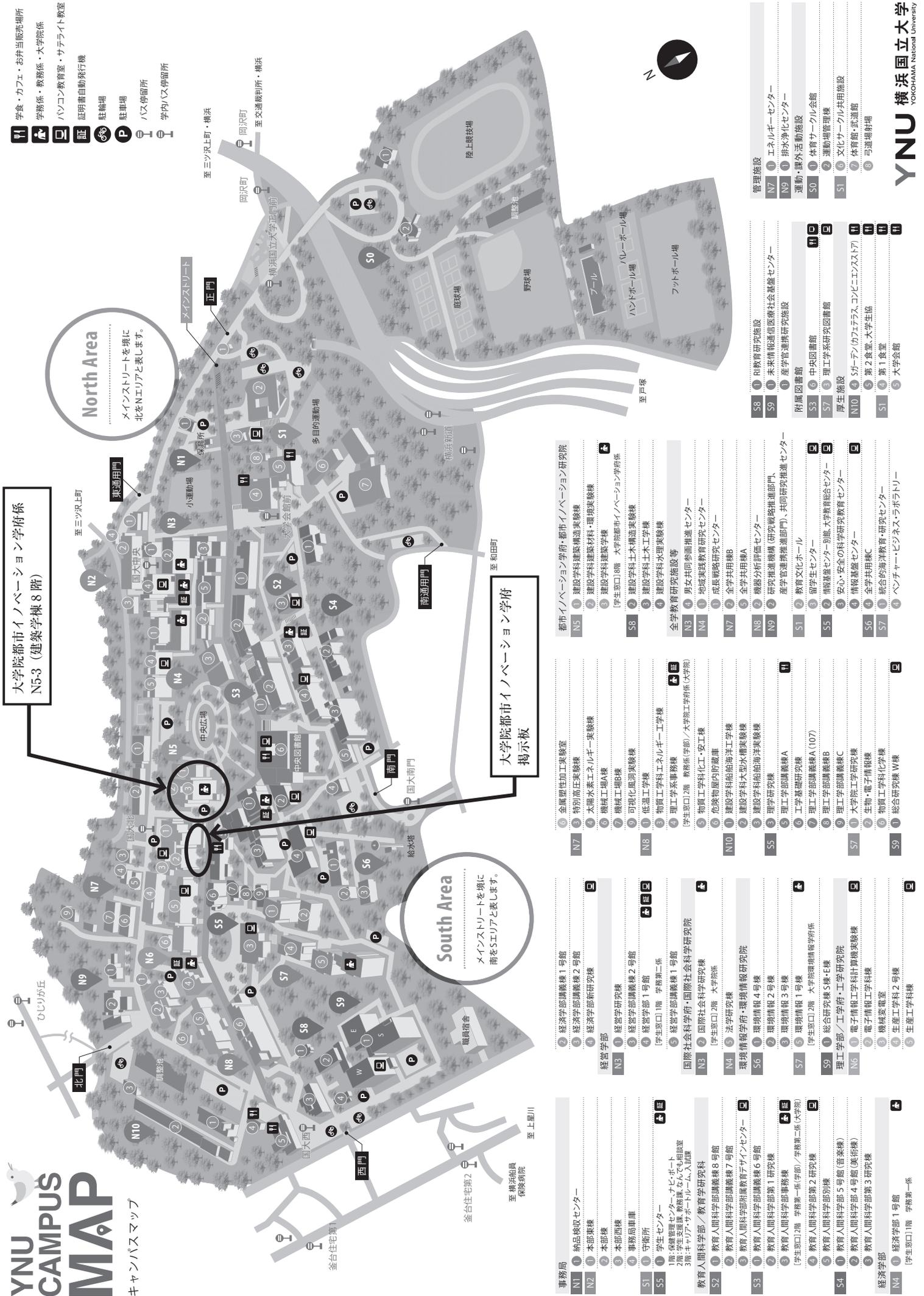
- 学食・カフェ・お弁当販売場所
- 学務係・教務係・大学院係
- ハンコン教育室・サテライト教室
- 証明書自動発行機
- 駐輪場
- 駐車場
- バス停留所
- 学内バス停留所

大学院都市イノベーション学術係
N5-3 (建築学棟 8階)

大学院都市イノベーション学術
掲示板

North Area
メインストリートを境に
北をNエリアと表します。

South Area
メインストリートを境に
南をSエリアと表します。

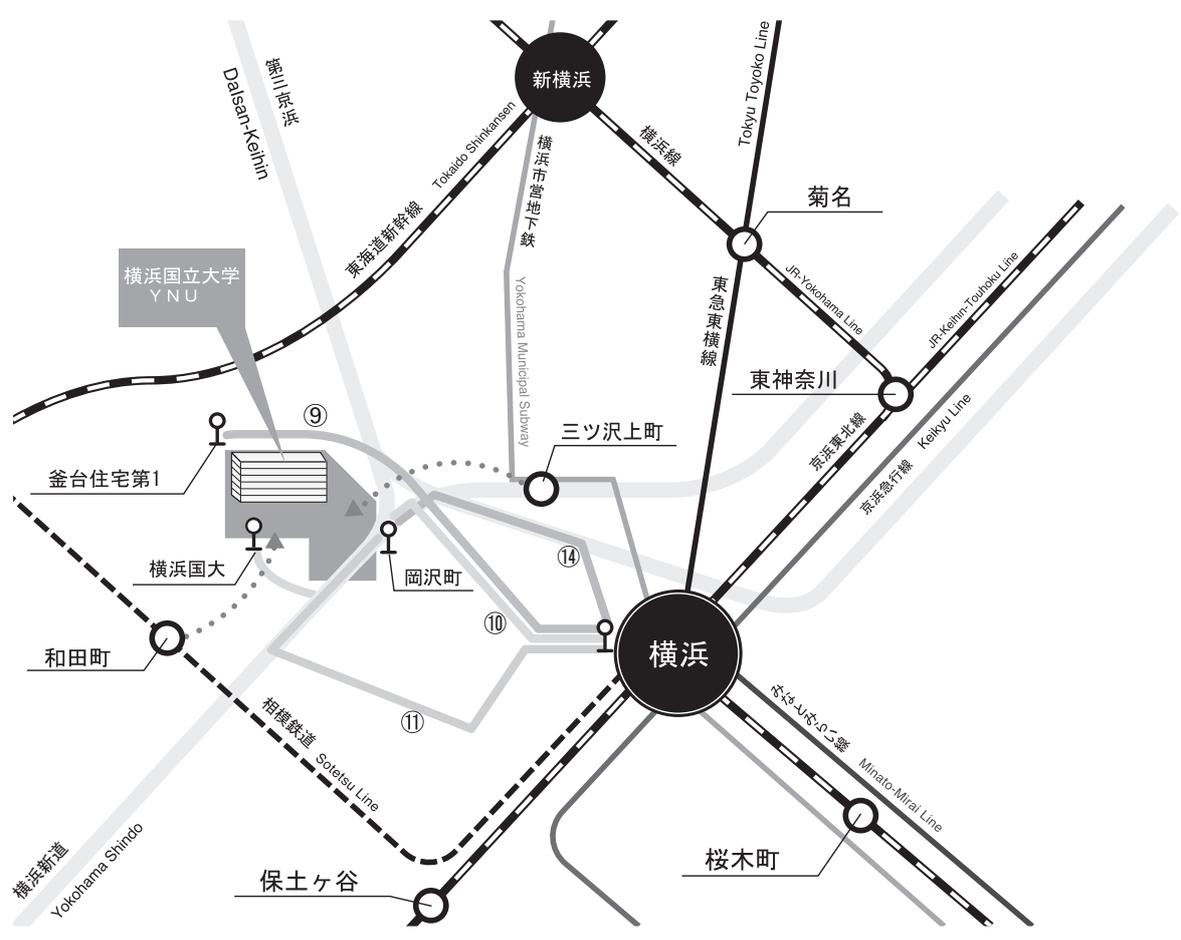


- 事務局**
- N1 納品検印センター
 - N2 本部東棟
 - N3 本部西棟
 - N4 事務局車庫
 - S1 守衛所
 - S5 学生センター
1階: 保健管理センター・ナビポート
2階: 学生支援課・教務課・なんでも相談室
3階: キャリア・サポートルーム・入試課
- 教育人間科学部 / 教育学研究科**
- S2 教育人間科学部講義棟8号館
 - S3 教育人間科学部講義棟7号館
 - S4 教育人間科学部講義棟6号館
 - S5 教育人間科学部講義棟5号館 (音楽棟)
 - S6 教育人間科学部講義棟4号館 (美術棟)
 - S7 教育人間科学部講義棟3号館
 - S8 教育人間科学部講義棟2号館
 - S9 教育人間科学部講義棟1号館
- 環境情報学術・環境情報研究院**
- S10 環境情報2号棟
 - S11 環境情報3号棟
 - S12 環境情報4号棟
 - S13 環境情報5号棟・E棟
 - S14 環境情報6号棟
 - S15 環境情報7号棟
 - S16 環境情報8号棟
 - S17 環境情報9号棟
 - S18 環境情報10号棟
 - S19 環境情報11号棟
 - S20 環境情報12号棟
 - S21 環境情報13号棟
 - S22 環境情報14号棟
 - S23 環境情報15号棟
 - S24 環境情報16号棟
 - S25 環境情報17号棟
 - S26 環境情報18号棟
 - S27 環境情報19号棟
 - S28 環境情報20号棟
 - S29 環境情報21号棟
 - S30 環境情報22号棟
 - S31 環境情報23号棟
 - S32 環境情報24号棟
 - S33 環境情報25号棟
 - S34 環境情報26号棟
 - S35 環境情報27号棟
 - S36 環境情報28号棟
 - S37 環境情報29号棟
 - S38 環境情報30号棟
 - S39 環境情報31号棟
 - S40 環境情報32号棟
 - S41 環境情報33号棟
 - S42 環境情報34号棟
 - S43 環境情報35号棟
 - S44 環境情報36号棟
 - S45 環境情報37号棟
 - S46 環境情報38号棟
 - S47 環境情報39号棟
 - S48 環境情報40号棟
 - S49 環境情報41号棟
 - S50 環境情報42号棟
 - S51 環境情報43号棟
 - S52 環境情報44号棟
 - S53 環境情報45号棟
 - S54 環境情報46号棟
 - S55 環境情報47号棟
 - S56 環境情報48号棟
 - S57 環境情報49号棟
 - S58 環境情報50号棟
 - S59 環境情報51号棟
 - S60 環境情報52号棟
 - S61 環境情報53号棟
 - S62 環境情報54号棟
 - S63 環境情報55号棟
 - S64 環境情報56号棟
 - S65 環境情報57号棟
 - S66 環境情報58号棟
 - S67 環境情報59号棟
 - S68 環境情報60号棟
 - S69 環境情報61号棟
 - S70 環境情報62号棟
 - S71 環境情報63号棟
 - S72 環境情報64号棟
 - S73 環境情報65号棟
 - S74 環境情報66号棟
 - S75 環境情報67号棟
 - S76 環境情報68号棟
 - S77 環境情報69号棟
 - S78 環境情報70号棟
 - S79 環境情報71号棟
 - S80 環境情報72号棟
 - S81 環境情報73号棟
 - S82 環境情報74号棟
 - S83 環境情報75号棟
 - S84 環境情報76号棟
 - S85 環境情報77号棟
 - S86 環境情報78号棟
 - S87 環境情報79号棟
 - S88 環境情報80号棟
 - S89 環境情報81号棟
 - S90 環境情報82号棟
 - S91 環境情報83号棟
 - S92 環境情報84号棟
 - S93 環境情報85号棟
 - S94 環境情報86号棟
 - S95 環境情報87号棟
 - S96 環境情報88号棟
 - S97 環境情報89号棟
 - S98 環境情報90号棟
 - S99 環境情報91号棟
 - S100 環境情報92号棟
 - S101 環境情報93号棟
 - S102 環境情報94号棟
 - S103 環境情報95号棟
 - S104 環境情報96号棟
 - S105 環境情報97号棟
 - S106 環境情報98号棟
 - S107 環境情報99号棟
 - S108 環境情報100号棟

- 都市イノベーション学術・都市イノベーション研究院**
- N5 建設学棟A
 - N6 建設学棟B
 - N7 建設学棟C
 - N8 建設学棟D
 - N9 建設学棟E
 - N10 建設学棟F
- 工学部**
- N11 工学部講義棟A
 - N12 工学部講義棟B
 - N13 工学部講義棟C
 - N14 工学部講義棟D
 - N15 工学部講義棟E
 - N16 工学部講義棟F
 - N17 工学部講義棟G
 - N18 工学部講義棟H
 - N19 工学部講義棟I
 - N20 工学部講義棟J
 - N21 工学部講義棟K
 - N22 工学部講義棟L
 - N23 工学部講義棟M
 - N24 工学部講義棟N
 - N25 工学部講義棟O
 - N26 工学部講義棟P
 - N27 工学部講義棟Q
 - N28 工学部講義棟R
 - N29 工学部講義棟S
 - N30 工学部講義棟T
 - N31 工学部講義棟U
 - N32 工学部講義棟V
 - N33 工学部講義棟W
 - N34 工学部講義棟X
 - N35 工学部講義棟Y
 - N36 工学部講義棟Z
- 理学部**
- N37 理学部講義棟A
 - N38 理学部講義棟B
 - N39 理学部講義棟C
 - N40 理学部講義棟D
 - N41 理学部講義棟E
 - N42 理学部講義棟F
 - N43 理学部講義棟G
 - N44 理学部講義棟H
 - N45 理学部講義棟I
 - N46 理学部講義棟J
 - N47 理学部講義棟K
 - N48 理学部講義棟L
 - N49 理学部講義棟M
 - N50 理学部講義棟N
 - N51 理学部講義棟O
 - N52 理学部講義棟P
 - N53 理学部講義棟Q
 - N54 理学部講義棟R
 - N55 理学部講義棟S
 - N56 理学部講義棟T
 - N57 理学部講義棟U
 - N58 理学部講義棟V
 - N59 理学部講義棟W
 - N60 理学部講義棟X
 - N61 理学部講義棟Y
 - N62 理学部講義棟Z
- 経済学部**
- N63 経済学部講義棟1号館
 - N64 経済学部講義棟2号館
 - N65 経済学部講義棟3号館
 - N66 経済学部講義棟4号館
 - N67 経済学部講義棟5号館
 - N68 経済学部講義棟6号館
 - N69 経済学部講義棟7号館
 - N70 経済学部講義棟8号館
 - N71 経済学部講義棟9号館
 - N72 経済学部講義棟10号館
 - N73 経済学部講義棟11号館
 - N74 経済学部講義棟12号館
 - N75 経済学部講義棟13号館
 - N76 経済学部講義棟14号館
 - N77 経済学部講義棟15号館
 - N78 経済学部講義棟16号館
 - N79 経済学部講義棟17号館
 - N80 経済学部講義棟18号館
 - N81 経済学部講義棟19号館
 - N82 経済学部講義棟20号館
 - N83 経済学部講義棟21号館
 - N84 経済学部講義棟22号館
 - N85 経済学部講義棟23号館
 - N86 経済学部講義棟24号館
 - N87 経済学部講義棟25号館
 - N88 経済学部講義棟26号館
 - N89 経済学部講義棟27号館
 - N90 経済学部講義棟28号館
 - N91 経済学部講義棟29号館
 - N92 経済学部講義棟30号館
 - N93 経済学部講義棟31号館
 - N94 経済学部講義棟32号館
 - N95 経済学部講義棟33号館
 - N96 経済学部講義棟34号館
 - N97 経済学部講義棟35号館
 - N98 経済学部講義棟36号館
 - N99 経済学部講義棟37号館
 - N100 経済学部講義棟38号館
 - N101 経済学部講義棟39号館
 - N102 経済学部講義棟40号館
 - N103 経済学部講義棟41号館
 - N104 経済学部講義棟42号館
 - N105 経済学部講義棟43号館
 - N106 経済学部講義棟44号館
 - N107 経済学部講義棟45号館
 - N108 経済学部講義棟46号館
 - N109 経済学部講義棟47号館
 - N110 経済学部講義棟48号館
 - N111 経済学部講義棟49号館
 - N112 経済学部講義棟50号館
 - N113 経済学部講義棟51号館
 - N114 経済学部講義棟52号館
 - N115 経済学部講義棟53号館
 - N116 経済学部講義棟54号館
 - N117 経済学部講義棟55号館
 - N118 経済学部講義棟56号館
 - N119 経済学部講義棟57号館
 - N120 経済学部講義棟58号館
 - N121 経済学部講義棟59号館
 - N122 経済学部講義棟60号館
 - N123 経済学部講義棟61号館
 - N124 経済学部講義棟62号館
 - N125 経済学部講義棟63号館
 - N126 経済学部講義棟64号館
 - N127 経済学部講義棟65号館
 - N128 経済学部講義棟66号館
 - N129 経済学部講義棟67号館
 - N130 経済学部講義棟68号館
 - N131 経済学部講義棟69号館
 - N132 経済学部講義棟70号館
 - N133 経済学部講義棟71号館
 - N134 経済学部講義棟72号館
 - N135 経済学部講義棟73号館
 - N136 経済学部講義棟74号館
 - N137 経済学部講義棟75号館
 - N138 経済学部講義棟76号館
 - N139 経済学部講義棟77号館
 - N140 経済学部講義棟78号館
 - N141 経済学部講義棟79号館
 - N142 経済学部講義棟80号館
 - N143 経済学部講義棟81号館
 - N144 経済学部講義棟82号館
 - N145 経済学部講義棟83号館
 - N146 経済学部講義棟84号館
 - N147 経済学部講義棟85号館
 - N148 経済学部講義棟86号館
 - N149 経済学部講義棟87号館
 - N150 経済学部講義棟88号館
 - N151 経済学部講義棟89号館
 - N152 経済学部講義棟90号館
 - N153 経済学部講義棟91号館
 - N154 経済学部講義棟92号館
 - N155 経済学部講義棟93号館
 - N156 経済学部講義棟94号館
 - N157 経済学部講義棟95号館
 - N158 経済学部講義棟96号館
 - N159 経済学部講義棟97号館
 - N160 経済学部講義棟98号館
 - N161 経済学部講義棟99号館
 - N162 経済学部講義棟100号館

- 管理施設**
- N71 エネルギーセンター
 - N72 排水浄化センター
 - N73 運動・課外活動センター
 - N74 体育サークル会館
 - N75 運動場管理棟
 - N76 文化サークル共用施設
 - N77 体育館・武道館
 - N78 弓道場射場
- 附属図書館**
- S81 RI教育研究施設
 - S82 未来情報通信医療社会基盤センター
 - S83 産学連携研究施設
 - S84 中央図書館
 - S85 留学生センター
 - S86 情報基盤センター別館・大学教育総合センター
 - S87 安心・安全の科学教育推進センター
 - S88 情報基盤センター
 - S89 留学生センター
 - S90 安心・安全の科学教育推進センター
 - S91 情報基盤センター
 - S92 留学生センター
 - S93 安心・安全の科学教育推進センター
 - S94 情報基盤センター
 - S95 留学生センター
 - S96 安心・安全の科学教育推進センター
 - S97 情報基盤センター
 - S98 留学生センター
 - S99 安心・安全の科学教育推進センター
 - S100 情報基盤センター
- 学生施設**
- N101 Sガーン(カフェテリア・コンビニエンスストア)
 - N102 第2食堂・大学生協
 - N103 第1食堂
 - N104 学生会館

横浜国立大学への交通図



交通機関

横浜駅

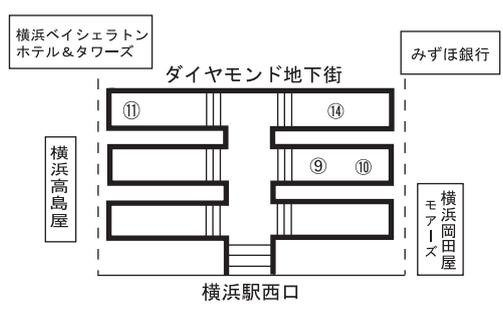
▼ 電車

- 横浜市営地下鉄 三ツ沢上町駅下車 徒歩16分
- 相模鉄道 和田町駅下車 徒歩20分

▼ バス

西口のりば	のりば	系統	行先	(主な経由地)	下車
● 横浜市営	⑪	202	循環外回り	(和田町)	岡沢町
	⑭	201	循環内回り	(松本)	岡沢町
● 相 鉄	⑨	浜11	上星川駅	(釜台)	釜台宅第 1
	⑩	浜5	横浜駅西口	(交通裁判所)	岡沢町
● 神 奈 中	⑭	01	中山駅	(松本・梅の木)	岡沢町
★ 横浜市営	⑭	201	循環内回り	(国大)	国大北
	⑭	329	横浜駅西口 急行	(松本)	国大北
★ 相 鉄	⑩	浜10	横浜駅西口	(国大)	国大北

横浜駅西口バスターミナル乗車案内図



★平日は、大学構内を通行する路線バスが運行されます。
(土曜日は運行されません。)

(注) バスは、交通渋滞により遅れる可能性がありますのでご利用に際しては注意してください。

横浜国立大学大学院都市イノベーション学府

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 番 5 号

電話 045(339)3826 (ダイヤルイン)

理工学系大学院等大学院都市イノベーション学府係